

番組審議委員会議事録

株式会社 衛星劇場

1. 開催年月日 平成16年2月25日(水) 12:00～13:00
2. 開催場所 東劇ビル13階 会議室
3. 委員の出席 委員総数 7名
出席委員数 7名 (堀江ミエ子、田中康義、品田雄吉、小山観翁、
山内静夫、伊藤信太郎、中村芝翫)
4. 放送事業社側出席 6名 (石川富康[代表取締役社長]、工藤泰之[専務取締役]、
山崎克己[取締役・編成担当]、中川滋弘[製作部長]、深
田誠剛[編成部長]、尾崎誠[編成次長])
5. 議事の概要
 - ・衛星劇場及びホームドラマチャンネルの現状報告
 - ・その他
6. 議事内容
 - 現状報告
 - ・衛星劇場及びホームドラマチャンネルの現状
 - ・上記加入者に関する分析の報告
 - 今後の放送予定と出資作品
 - ・衛星劇場の出資作品の説明

(議事詳細)

石川社長 : 本日はお忙しい中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。

では、衛星劇場の現状から説明させていただきます。

昨年末ですが、『冬のソナタ』のペ・ヨンジュン主演のドラマ『愛の群像』を放送し始め、そのお陰かどうか加入が3年ぶりくらいでプラスになりました。今韓国ドラマは、とても好評でお客さんからの反響がものすごいです。今後もペ・ヨンジュンの出演作はドラマ、映画の放送権を獲得していく予定です。映画の方でいいますと、いい映画はどれも押さえ込んでしまうので、うちで全部の権利を得ることはとても難しい状況になっています。映画チャンネルが増えて、J-COMなどのケーブル局からは、厳しい声も出ています。いろいろなチャンネルに同じ映画が出回り、お客さんからは苦情が増えてきているとのこと。この問題を解決していくことは難しいですね。質のいい映画はどれも放送したいですからね。

では、各チャンネルの説明をお願いします。

山崎取締役 : 韓国ドラマの人気、反響がものすごく、うちも昨年末から放送をしています。

シリーズでドラマを放送していく上で、定曜定時に当てはめて放送しています。韓国ドラマはシリーズが長いものもあるので、これからも皆様の声にお応えできるようなものを放送していければと思っています。映画のほうも、特集を毎月放送していておりますし、今後もこのようなスタンスで放送していければと思っています。

中川部長 : この1年で製作した映画は22本。そのうち韓国作品が3本、中国が2本と、アジアの映画にとっても勢いがあります。日本もその勢いに負けないような映画を作っていきたいものですね。『黄泉がえり』の塩田監督の『カナリア』という作品がありますが、オウムを描いた作品で、今本当のオウム裁判が開かれ、今後の判決の行方も気になるところです。製作のスタンスとしては、これからも新作映画に出資して独占権を得ることは続けていきたいと思っています。今までもいい作品、特に賞などには恵まれてきましたが、もうちょっとヒットするような、質のいい作品にも出資していきたいというのが本音です。

小山委員 : 衛星劇場では視聴者からのリクエストを番組に反映させているので、これか

らもそういった姿勢は続けていったほうが良いと思います。

石川社長 : 質を落とすことはしないで、映画の質をよく見極めて出資していきたいですね。出資映画は、小ぶりの作品でも賞には恵まれていますから、一般の方には受け入れられていると思っています。

品田委員、いかがでしょうか？

品田委員 : 放送会社というよりは、映画会社のようなラインナップですね。でも、映画を一つ作れば会社の資産になっていくので、いいことだと思いますよ。これからもいい映画作りを続けて行って欲しいと思います。

伊藤委員 : 夕張映画祭に行ってきましたが、『地球で最後のふたり』というタイ映画がありました。とてもいい作品でした。タイの監督が撮った映画で、主演は浅野忠信が務めています。

また、私個人としては国会のほうで、映画振興法案を来年は起案するつもりでおります。映画をはじめ、音楽、パフォーマンスなどに対して、国がきちんと措置を下していかななくてはいけないと思います。それによって芸術というものがきちんと継承されて行って欲しいです。

石川社長 : ケーブルの方はどうですか？

山内委員 : こちらも苦しい状況は続いています。キャンペーンなどをうってもらいと、加入促進につながるのととても助かります。ケーブルだけで新規加入をとることは難しくなってきました。

堀江委員 : うちのケーブルでも、新規加入はなかなか難しいです。でも WOWOW などと比べると衛星劇場は、まだましですね。やはりいいものを放送していないと、視聴者加入にもつながりません。そういう意味でも衛星劇場の出資している映画のラインナップはとてもいいと思います。これからも期待しています。

田中委員 : 衛星劇場の出資映画の中にある『スクールウォーズ』のような映画がもっと出てくると、日本映画も元気になってくるんでしょうね。こんな映画を作る人が日本映画のリーダーシップをとって行って欲しいですね。それによって映画の質が上がっていけばいいですね。

石川社長 : おっしゃる通りですね。ただ映画を作るだけではなく、質のいい映画作りに参加していきたいですね。今後とも衛星を取り巻く環境は、一段と厳しくなっていますが、審議委員の方々の貴重なご意見を活かして、より一層頑張っていきたいと思いますので、何卒よろしく願いいたします。

7. 審議期間の答申又は改善意見に対してとった措置及びその年月日

特になし

8. 審議期間の答申又は意見の概略を公表した場合におけるその公表内容、方法及び月日

特になし

9. その他の参考事項

特になし